



1996年  
今月の寄贈品コーナー 縄文土器作品展 11月1日(金)~11月29日(金)

■小学生・中学生の夏休み期間にあわせて、「縄文土器」を作りました。昨年は「磨製石斧」。身近にある素材、土・木・石などを使って、古代人の道具を作り、生活の知恵を体験する企画です。

■3日間連続で縄文土器の形を作り、2週間ほど乾燥させてから、野焼きを行いました。粘土は市販のものに、黒土と砂を混ぜたものを使用しました。約5000年前の五領ヶ台式土器を手本として、全員同じものを作りました。

■子供達の感想

○昔の人は、気が長いなーと思った。一つの土器を作るのに、こんな長作業をするなんて、すごいなーと思いました。とてもいい体験をしました。

○ぼくは、初めて土器を作った。土と粘土を混ぜるのが一番きつかった。まぜ終わってへビのように長くしてかさねて形をつくる。もようづけをしてできあがり。つくっているときは、とても楽しかった。

○土器を焼くときは、あつくて近寄れませんでした。木を入れる時、あつくて木をなげ捨ててしまいました。でも、縄文土器を作って楽しかったし、友達ができて、いい体験になりました。また、やりたいです。

○縄文人はとってもめんどくさいことをやっていたんだと、ちょっと感心しました。私は縄文土器を作りながら、昔の人になりきって作った。連続3日間のときはちょっとたいへんだったけど、ガンバった。みんなもガンバッテいた。

■子供達には初めての体験。しかも、4日間と長い作業。学校生活とは別の世界。不安と期待の狭間のなかで、一人一人大変頑張って作り上げました。この貴重な体験が、実生活の中で生かされればと思います。

思いを込めて作り上げた作品を、ぜひゆっくりご覧頂きたいと思います。